

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	博物館協議会		
開催日時	24年9月27日（木） 午後6時00分～午後8時		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 名取委員 花里委員 浜委員 両角委員 鶴飼幸雄文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷博物館係長 柳川博物館係主査		
欠席者	なし		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
若宮八ヶ岳総合博物館長	1 開会（博物館係長）  2回の会議で、非常に参考になる意見をいただいた。今回と10月25日で科学教育振興についての具体的な事業内容・運営の方法・指導者の育成について、子供たちの輸送方法をどうするのか、科学教育振興を実現するのに必要な施設設備が必要か、どのくらいの面積が必要か等にふれていただければと思う。これらのことを進めていくための行政の支援体制と学校との連携・協力を専門の立場からどうしたらよいかをうかがいたい。		
大谷係長	2 第3回茅野市博物館専門部会 会議結果報告書について 過去2回の会議録は、公開できる運びとなった。 訂正点などはその場で出ず、次回の専門部会で訂正点などを挙げてもらうことになった。		
沖野部会長	3 協議 テーマは科学教育振興について。23年度の答申の時に、細かい内容を協議したが、23年度に展示部会に参加していた委員に、補足的に意見を出してもらいたい。		
大谷係長 名取委員	資料の説明。 一番期待しているのは、展示を踏まえて、茅野市の持っている自然、八ヶ岳から諏訪湖、霧ヶ峰を含めて、大自然というもの生の素材、それから風土として人間の生活も含めて、子供たち、市民の人たちに生活に基づいた風土の考え、豊かさなど、展示だけではなく学芸員が野外へ出て行って、展示物を野外に発展させていって、タブレットを持って外へ行くと、じかに生の自然が見られるといった話があったが、そのようなものが八ヶ岳総合博物館とつながって科学教育の充実につながるのではないかと思う。		
小池委員	名取委員と同感である。今度の展示は学習者にとってわかりやすいものになっていくと思うが、フィールドと結びつけるのは重要である。科学教育というより学習といった方が、市民サイドからは柔らかい表現だ。茅野		

沖野部会長	は昭和 63 年から生涯学習都市宣言をおこなっているが、そのような表現がいいのか、教育と打ち出していくのがわかれ道なのか。ここで、3 のことが挙げられているのだが、このようなことが大事だと思う。
小池委員	前回の協議でも、教育というのは学習も含めてのことだったと思う。表現の問題もあるかもしれない。教育だと上からだというイメージがある。
沖野部会長 北澤副部会長	あくまでも主体は学習者だという視点に立てば、学習の方がいいのかもしれない。 ハードの方はまだ先に議論して、まず中身の方をどうするか。 科学教育センターの創設となった場合は、展示物を大いに活用していただきたいということを、23 年度の展示部会では願っている。展示物の有効活用によって、展示物から発想される学び体験をスタートしてもらいたい。それには、学芸員が学ぶ人たちと自然とどのように結び付けを図るかによって、この展示物が有効活用され、博物館本来の目的に近づくことになるのではないか。その面で、展示物の有効活用は欠くことのできない要素だ。展示していない物についてはどうしていくか。気象などについて、科学センターの活動の中に取り入れてもらって、総合的な科学教育に、理科教育の学習につなげてもらいたい。展示物の欠けている部分を補ってもらいたい。ここでは、「学校では扱いつらい高度な科学実験」と言っているが、その中身はこれから吟味した方が良くはないか。学校からの要望を聞いて、学校で扱えない物を扱うのは大いにいいと思う。教師の研修といった場合には、その実験がどういう意味があるのかといったことを先生に分かってもらえないと、内容のないものになってしまう。
浜委員	現在、社会で起きている、活断層・地震・LED・環境問題・温暖化・汚染など、新聞で取り上げられているものはわかりやすく展示にしていきたい。生物の絶滅種とか異常に増えている生物など色々ある。
北澤副部会長	浜委員が言った内容について、子供は興味を持っている。講座や、特別それを取り上げた学習する機会を設けて、展示を補えればよい。
花里委員	展示だけだと興味を持ちづらい。説明ができる人がいればよい。それは学芸員や市民学芸員が対応するのだろうか。この会議の最初の方で「広報する」ということがあった。「広報ちの」に目立つように載せれば、子供が来てくれると思う。重要なことは、頻繁に来ていると展示がいつも同じだとダメなので、色々な人に来てもらうためには、展示などが短いスパンで替えるようにできればいいと思う。
沖野部会長	常設展示室と、どんどん変わっていく展示室ということか。特別にもならないが、テーマ展示室という感じだと思う。この担当は科学センターでやればいいと思う。
北澤副部会長	新しい視点で見ってもらうのは、ぜひその展示に関わっている新しいデータについては、科学センターの活動にいつもつけ足していければ、可変可能な展示を臨機応変にしていきたい。これができれば常設展示と実際の自然の状態とつながっていくし、そのつなぎをどうするかは学芸員やボランティアが伝えていくことが大切だ。展示部会でも可変可能な展示コーナーが作ることができればという話があった。工夫によっては色々できる。
花里委員	市民が趣味でやっていることで、その集大成としてここで展示できればいいと思う。

北澤副部長	それはいいことだ。このようなことができると、市民とコミュニケーションがとれる。博物館に関心を持ってもらえる。
花里委員	その場合、学芸員が関わらなくてもできるように。自分で、この日のこの時間は、自由に展示できるようにするのがいいと思う。
名取委員	富士見町図書館にコミュニティプラザというのがあるが、本からスタートしてその場所で文化を広めるという講演会などの活動を行っている。歴史・縄文は尖石でやっているが、科学でやっている施設が富士見にはない。プラザ的なものが教育というものでは。
北澤副部長	市民の人たちが自分たちの発見したものを展示するというのは大切である。催しがあるときには大いに来てやってくださいということをやればいい。そのような場を提供するとか。
石森委員	茅野市でも生涯学習の一環として、諏訪東京理科大のコーナーにコミュニティプラザがある。茅野市図書館と連携して相互貸し出しをしている。勉強ルームがあって、市生涯学習と連携してイベント・講座を開いている。駅前に振興プラザがあり、勉強できる場があるが、八ヶ岳総合博物館がいかにハブ的に機能するか。企画・運営を総合博物館は担っていくことになるが、総合博物館は情報発信がわかりづらい。ホームページのどこにあるのかかわからない。バナーを貼ってほしい。
茅野委員	科学教育センターというからには、どうなればいいのか。博物館で呼びかけてもなかなか人は来ない。花里委員が言ったように、自分たちが持ち込んだものがグループになって面白い事を行っているな、ということで、人が集まってそれが核になれば、自分たちの教育となっていったいいのではないか。最初は専門家が始めて、面白い事をやればいい。科学センターを作っても「何をやってるんだ」ということだと困る。 特別展示は、花里委員が言ったようなものを核にしたものであれば面白いと思う。
北澤副部長	科学教育センターに参加する人は入場料を取るか取らないか。科学教育センターに来た人は自由に展示が見られるなどの工夫をした方が良くはないか。
花里委員	1回だけの市民学芸員として取らない方が良くのでは。
茅野委員	それなりの施設・備品が欲しい。
北澤副部長	子供が来たら、付き添いの親の入館料は取るのか。
若宮八ヶ岳総合博物館長	取っています。
石森委員	諏訪東京理科大学のフレッシュマンゼミの時に、入館料減免の書類を書けば、入館料は取らない。
両角委員	現状では学習会員制度があって、2か月に1度、催し物のお知らせが配られ、学習会員の中にグループがあってそれで活動している。しかし、グループの活動が下がり気味である。このグループをレベルアップしていけば良い。やはり、現在の学習会員のように、1回は入館料を取った方がよい。公然としていた方がよい。学習会員になっていると、次のステップまで行けるという企画があればよい
北澤副部長	それは大人対象か。
両角委員	以前は子供も一緒に学習会員になっていたが、小・中学生が無料になっ

北澤副部長	たので、入会料は払わなくなった。
石森委員	学習会員制度をPRした方が良い。
沖野部長	1年分の入館料を払ってれば、また行かなくてはという気になる。
小池委員	学習会員制度はどこで広報しているか。 窓口で告知している。また、『広報ちの』などでやっている。1年更新で、3月か4月に広報がある。
両角委員	3月に各グループの発表会がある。
名取委員	夏の日に草取りなどの労働奉仕はあるか。
両角委員	ない。正月のイベントで協力はしてくれる。
名取委員	富士見町にコミプラというのがあり、30数個の研究会がある。施設を使うのは無料だが、夏に施設の周りの草取りを年2回ほど行っている。ミヤマシロチョウの会が活発に活動しているが、同じように科学教育センターが核になればいいと思う。
両角委員	ミヤマシロチョウの会ももともと学習会員のグループだった。
茅野委員	人の問題がある。今自然系の学芸員といっても、1人しかいない。これまではいなかった。自然系の博物館といっても困る状況だ。自然系の博物館に係きりになれるような臨時の人でもいいと思う。
沖野部長	市民学芸員がそうになってくれればいい。
名取委員	飯田市美術博物館には専門家がいて、下伊那の自然科学の核となっている。
茅野委員	伊那谷自然友の会が博物館を拠点として、色々な活動を行い、たくさん人が来ている。人に余裕があるから研究できるのだろう。
沖野部長	博物館との関係はどうなっているのか。
浜委員	博物館が事務局になっている。
沖野部長	今年度から市民学芸員養成講座を開催しなければならない。
茅野委員	総合博物館では、人手が少なくて対処できない。
沖野部長	それは、ここで言うということではなく、東京理科大学でできないか。信州大学にマイスター制度があり、カリキュラムはそのような感じのものを組んでもらえば。その辺の企画を早くしておかないと、入れ物だけ先にできてしまうと追いつかなくなる。これから予算期なので、反映できればいいのでは。まず始めてしまうということが大事だ。正職員というものは無理なので、養成講座を設けて、マイスターの称号を与えられればいいのか。
北澤副部長	学習会員カードをもっとPRした方が良い。学校の参観日などでPRしてもらえばいい。
花里委員	企画は親も来るので子供中心が良い。本当は学校で教育してくれた方が良い。学校でチラシなどを配ればよい。
茅野委員	子供科学クラブは各学校にチラシを配っている。
浜委員	学習会員カードを諏訪全域の博物館でできないか。
鵜飼館長	学習会員になるのは地域にこだわっていない。
北澤副部長	まずは茅野で実績を作った方が良い。
浜委員	学習会員カードがあれば、諏訪全域の博物館・美術館に入れるようにならないか。
小池委員	「広報ちの」(放送)で流せないか。

鵜飼課長	<p>広報で大きく告知するのは3月末の「学びのしるべ」だ。通常では、インターネットと窓口で告知している。あと、学校に積極的に行うということだが、現在はそこまでできていない。市内の小・中学生や在学している高校生は無料だ。</p>
沖野部会長	<p>広報しても見てもらわなければどうしようもないので、見てもらうための工夫が必要だ。</p> <p>対象は教員だけではなく、市民も対象だ。しかし、教員の研修の場としても考えなければならない。そのような設備が必要だ。</p>
岡本委員	<p>教員の研修に関わって、科学教育センターとつなげた場合、どう機能したら良いかと考えると、答申の4つ目の「学校では扱いにくい高度な観察実験」というキーワードがあるが、小学校という範囲で考えると、高度な観察実験というよりも、準備が大変な実験、あるいは、継続的な観察で、その観察していく状況を維持していくことが困難ということが扱いにくいということが、現状ではあると考えられる。指導力向上ということでは、大規模校に理科専科の職員が配分されるが、半分は配分されない。小規模校は学級担任が対応することになる。学級担任が指導することを考えると、指導力向上と関連した場合、課題がある。</p> <p>2つ課題があり、一つは教材研究だが、専科で勉強してきた人ではないと、見通しが見つからない。課題意識を持った人が教材研究を扱うならばありがたいと思う。</p> <p>もう一つは、子供を連れてきて一緒に授業をするということがあるが、これを支援する形でのサポート体制ができれば良いと思う。県の施策として器具を用意してくれる人を配置されるが、人数は少ない。このようなことを、科学教育センターで補完してくれればよい。中学になると専科なので、館に当てはまることがあると思うが、部活があるので時間的には難しい。方法を考えなければ、科学教育センターの利用方法は難しいのではないか。中学校の理科教師がどう関わられるかを詰める必要があるのではないか。当面は小学校の教師とどうかかわれるか、指導力の向上という観点からどうサポートできるかを考える必要がある。</p>
沖野部会長	<p>市民学芸員ができれば何とかできると思う。貸出の理科キットみたいなことができればよい。理科教育センターはそんなことができるように考えなければならない。場が必要だ。誰でもいいということではないので、何らかの資格を市から与える必要がある。信州大学のマイスター制度はどうなっているのか。</p>
花里委員	<p>信州大学のマイスター制度は、実験が中心だ。</p>
鵜飼課長	<p>レポートを出すと聞いている。</p>
茅野委員	<p>岡谷のエコクラブでは、信州大学のマイスターの人が来て、指導してくれる。大学院生も連れてくる。</p>
沖野部会長	<p>大学の資格だと、資格を与えるだけで目的がない。博物館として市民学芸員を育てるための講座を作らなければならない。</p>
浜委員	<p>建物を建てるだけではなく、成果を上げていかなければならない。市民参加を考えると、茅野または諏訪の素晴らしい自然の原風景を残していくのはどうすればよいかを、まず、市民参加で現状を調べなければならない。地質・動植物・水質などを調べていくが、調査するグループを全市民に募</p>

沖野部会長	集すればいいのではないか。全家庭にチラシを配れば集まるのではないか。そして、専門の講師がついて指導すればよい。年1回は紀要などを出したり、博物館の展示にしたりして、早速始めれば、結構市民が集まると思う。実験できる場としてプレハブなどの実験室を作ってもらいたい。
茅野委員 沖野部会長 茅野委員 沖野部会長	フィールドであれば場所がなくともできるのではないか。それがつながっていけば、建物が建つということになればいいのではないか。活動するには、人がいなければどうにもならないが、それをどうするかが問題だ。学習会員制度があるが、それを利用すれば何とかできると思うが。それに先生方が参加してくれればいいと思う。八ヶ岳総合博物館には友の会はないか。 この館にはないが、学習会員のグループがやっている。 もう少し広くいろいろなグループはないか。 ない。 それをまとめていくためには学芸員が必要だ。そうでないと持続的に活動していくのは無理だ。
茅野委員 花里委員	とにかく人がいなくて難しい。 八ヶ岳総合博物館では博物館実習をやっていると思うが、実習生に企画をやってもらえばどうか。ここで理科の教育実習はできないか。
茅野委員 沖野部会長	教育実習は忙しくて無理だ。 諏訪東京理科大学が茅野市の生涯学習と開催している講座は、カリキュラムの一環のとして行っているのか。講座はどこが主催しているのか。
石森委員 沖野部会長 鵜飼課長	場所として東京理科大の中にあり、市の生涯学習が主として行っている。東京理科大で行っている講座と博物館の関係はどうなっているのか。 市の生涯学習の中に位置付けられている。生涯学習基礎センターというのが組織上あるが、実態はない。生涯学習センターに、博物館施設や社会教育施設が位置付いている。各館で行われる行事などを生涯学習課で取りまとめている。これは、全戸配布となっている。
名取委員	白鳥先生が小泉山の植物の説明をしたり、野沢進之輔先生が野鳥に関する問い合わせを受けたり冊子を刊行しているが、このような活動と八ヶ岳総合博物館とは関係はないのか。
鵜飼課長	博物館で探鳥会などの活動を行っているが、小泉山に関しては体験創造委員会という別の市民グループで行っている。これは生涯学習課の事業である。
沖野部会長	その中の一環として市民学芸員養成講座を提案すればできると思うが、そのために講師を呼ぶとなれば予算がいることになる。
鵜飼課長	予算がいることになるが、ボランティアで講師を勤めてくれる人がいるればいいが。
沖野部会長	そうすれば、カリキュラムを組まなければならない。そのあたりを博物館で研究ができないか。早目にカリキュラムを組まないと講師もなかなか受けられないと思う。
若宮八ヶ岳総合博物館長	建物ができる前に講師を勤めてくれる人を考えないと、建物ができても動かないようでは困る。そのためには予算が必要なので、来年に向けて準備をしていかなければならない。浜委員が言った市民で自然を調べようというのは同じイメージである。そのような形で市民学芸員を作っていかな

	<p>なければならない。</p> <p>この講座を受ければ市民学芸員になれるというイメージがあると良い。市民学芸員でも、専門を設けた方が良い。</p>
沖野部会長	
浜委員	霧ヶ峰の自然保護センターでは、3日ほどの連続講座でインタープリターの資格がもらえる。
沖野部会長	学芸員という資格と説明者という資格と2つの考え方があり、2本立てくらいにして、あまり重くすると長続きしない。
浜委員	それは国が認める資格か。
沖野部会長	今、信州大学で出しているマイスター資格は大学から出しているもので、全国通用するものではない。地域版ということではないか。そのような人たちが参加してハードの面も考えていくのが必要だと思う。先生を指導する場合は、それなりの人でないと偏ってしまう。
岡本委員	学校職員が早い段階で、この構想に関して理科教育とリンクした活動についてディスカッションできる場が必要。建物ができる前にどのように活用していくかという展望の中でディスカッションするのが必要。現場がどのような課題を持っているかを語り合えばよい。
石森委員	実態的には以前に科学教育センターについて新聞・広報に出た内容で、この施設に期待するものはどうですか、とか、理科の専科以外の先生が必要なのはどのようなものですか、とかいうものを聞いた方がよい。
沖野委員	現職の先生とディスカッションする機会を設けてはどうか。学校に出向いて、やればよいのでは。
若宮八ヶ岳総合博物館館長	そのような時間はとれるか。
岡本委員	先生方が、理科教育と博物館をどう結び付けられるのかを考えたことがない中で、答えていくのは難しいのではないかと。アンケートをとるにしても、答えられそうな設問が必要。
北澤副部会長	校長会では科学教育センターの設立について話題になったことがあるか。他の先生は岡本委員の役割を知っているのか。
岡本委員	審議内容を報告していないので、他の校長には伝わっていないと思う。
北澤副部会長	校長にまずニーズを聞いて、それから現場の先生に聞くという、2段・3段とやっていかないと、いきなり現場の先生に聞いても上手くいかないと思う。校長たちの意識がそこに伝わっていかないと。校長会でPRしてほしい。
名取委員	茅野市の特に中学校の理科専科職員の組織はあるか。
岡本委員	中諏では、科学作品の理科教員の組織はある。
浜委員	中諏理科担当者会はないか。
岡本委員	中学の教科会はあるが、小学校は専科ばかりではないので組織ははっきりしていない。
石森委員	各小学校で科学クラブ・サークルがあると思うが、東京理科大に要請があって北山小学校で行っている。そのようなものは組織化されていないのか。
岡本委員	それは各学校で活動していたものが大事に受け継がれているものだ。学校独自の伝統となっている。
北澤副部会長	教育長に話して、校長や一般の先生と話ができないか。

名取委員	理科の先生の博物館友の会ができれば良い。
浜委員	小学校では理科担当教員がいるはずだが。
岡本委員	理科係というのがいる。それはどちらかといえば備品の維持管理担当だ。
北澤副部長	岡谷では今言ったことを蚕糸博物館でやっている。学校の担当者を集めて年2・3回会議を開催し、ニーズに基づいて、臨時職員が出前講座を行っている。出前講座をやると施設に来てくれる。交通手段も教育委員会に言うとか何とか手配してくれる。こちらからやることと現場のニーズをとらえるということが必要。新任の校長は、まず、博物館に来るのか。
岡本委員	新任の校長が中諏地区の施設を回ることになっているが、そのコースに位置付けている。
北澤副部長	市民より、まず学校から盛り上がらなければいけない。学習会員制度については、先生は知らないのではないか。学習会員カードをもう少し大事にするような感じに作った方が良い。現状でできる範囲でやって、これが集まれば科学教育センターの中身となるようになればいい。
沖野部長	市民学芸員を早く作るのが必要だ。これは予算が要らないのすぐできるのではないか。早くに講座を作って生涯学習に持ち込むのが早道ではないか。すでに市民学芸員的な人がいるので、最初の市民学芸員に認定してもよいのではないか。
若宮八ヶ岳総合博物館館長	博物館で重要な資料の整理・保管などを理解してもらって講座が必要だ。また、植物などの個々の事柄について勉強して、それができれば市民学芸員となるというその詰めができていない。
沖野部長	信州大学にカリキュラムがあればそれを土台にすればよい。花里委員に調べてもらえばよい。
若宮八ヶ岳総合博物館館長	博物館学についてはある程度のことわかるが、教育普及に目が行きがちだが、博物館はもっと大きな部分があるということを知ってもらった人に理解者・協力者として市民学芸員になってもらえればよいと思う。
沖野部長	土台は博物館学と同じだが、この館独自のカリキュラムがあればいいが。大きくしても来る人は大変なので、簡潔なものか良い。
	その他、部会員から特に質問、意見等はなく、次回も視察を踏まえて、引き続き科学教育の振興を議題に審議を進めることので了承された。
	4 次回以降の予定 10月20日(土)午前7時20分集合で飯田市への視察を行いたい。また、10月25日(木)と11月15日(木)午後6時からで行いたい。
	その他、部会員から特に質問、意見等はなく、次回日程についても了承された
	5 閉会